

「学生の制作する音楽録音作品コンテスト」受賞作品制作レポート

戸塚 WINDS レコーディング

日本工学院専門学校ミュージックカレッジ音響芸術科 2年

岡澤 朝輝、小形 花菜子、飯塚 菜央、岩坪 拓弥、櫛田 優理、永井 隆陸

1. 初めに

本作品の企画は、「吹奏楽というジャンルの音楽の良さをもっと多くの人に知ってもらいたい」という企画者(岡澤)の思いがきっかけで、一般の人々への無料配布音源の制作を目的とした吹奏楽のレコーディングを行うこととして始まった。

演奏は、岡澤の母校でもある横浜市立戸塚高等学校吹奏楽部(通称:戸塚 WINDS)に協力していただいた。

それと同時に、収録へ協力いただくことへの気持ちとして録った音源を贈呈することも兼ね、ステレオ音源を制作。また、吹奏楽の醍醐味である”大編成”を生かした面白いレコーディングができないかと考え、5.1chサラウンドでの収録も試みた。

2. レコーディング環境

レコーディングを行った場所は、戸塚 WINDS が普段から合奏練習を行なっている同校の合奏室だ。(写真 1)

この場所を選んだ理由としては、総勢 100 名規模でのレコーディングとなったため移動が困難だということもあったが、プロ様式のレコーディングに慣れていない高校生にとってホームな環境を選ぶことで、彼らにとって一番良い演奏になるのではないかと考えた点が大い。

実際の演奏も、初めは皆緊張した面持ちであったが、後にリラックスした表情で伸びの良い素晴らしい演奏を披露してくれた。

モニター環境に関しては、合奏室内に併設されていた準備室という部屋を利用。(写真 2)

GENELEC1031×5 本を持ち込みサラウンドのモニター環境を整えた。

3. セッティング及び収録

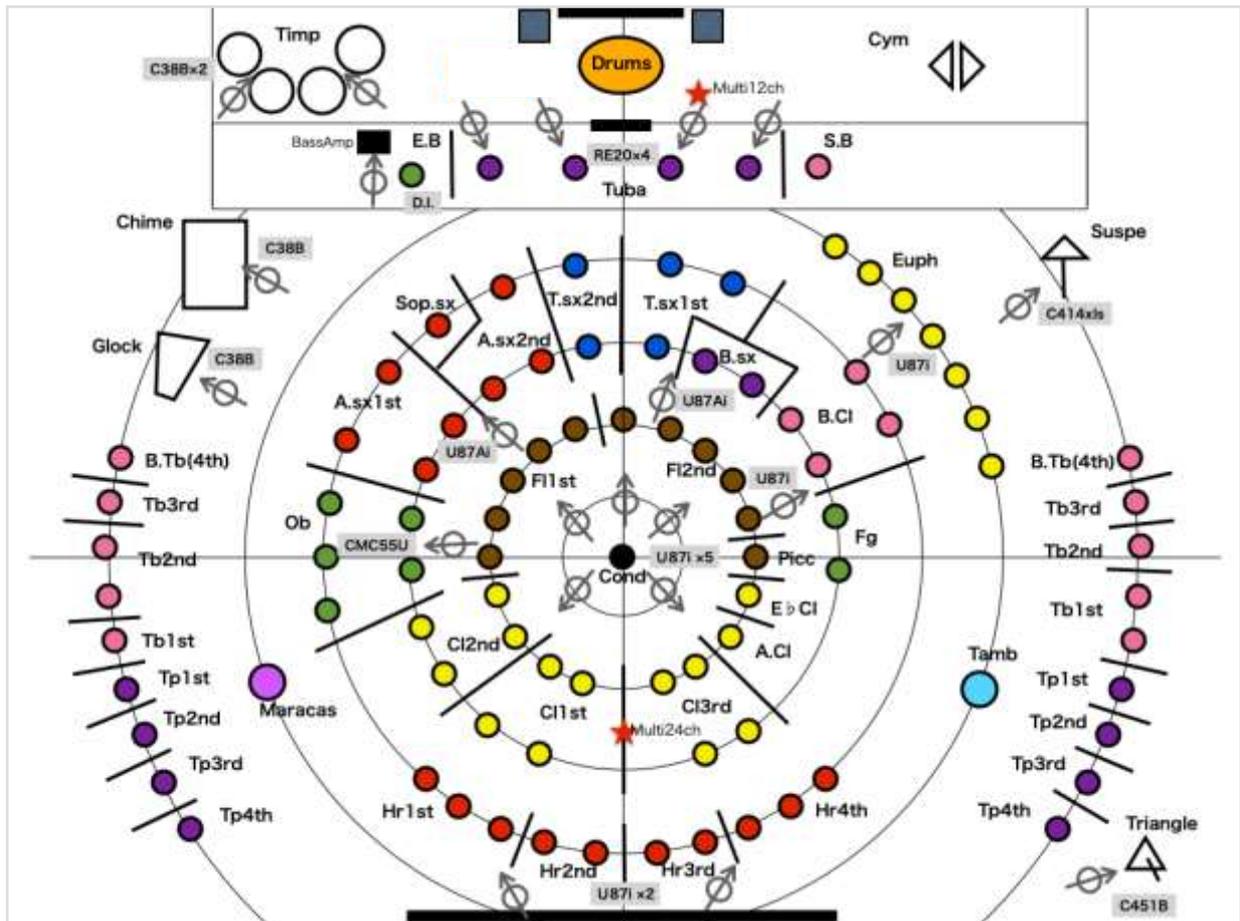
セッティングは指揮者を取り囲んだ円形状で、スコアを確認しながら演奏上のバランスや、楽器の特性(直管楽器の音の飛びやすさ、純木管楽器の埋もれやすさ等)も踏まえ奏者を配置。



写真 1: 合奏室の様子



写真 2: 準備室でのモニターの様子



実際の配置のセッティング図



写真3：サラウンドマイクセッティング

座奏であったことと、一列目木管楽器のオンマイクとしても使用したサラウンドマイクの U87i はやや角度を付けてセットした。(写真 3)

奏者の意識やスタミナを考慮し、楽器ごとのダビングは無しで全体一発録りにかけたため、後日ミックス時のパンニングの自由が利かないというのがやりにくい点であった。しかし、録った音源の「全ての楽器のバランスが良くパンニングされた状態に聴こえる」ようなセッティングを目指して、予め綿密なセッティング図面を作成しておいたことで、その場の臨場感というものも多に感じることができた。

様々な楽器がある中でも特に被りがひどく厄介だったのはドラムスだ。

定位の都合上ドラムスとチューバはどうしても真ん中に置きたかった。ただドラムスとチューバの間は部屋の広さの都合上ひな壇に載せていたため空けられなかった。

そこでドラムスとチューバの隙間に毛布の壁を作り吸音を狙うことにした。また、チューバ 4 本にはそれぞれオンマイクをクローズで立てることにより、個々のサウンドを確立することができた。

(写真 4)にもあるようにドラムスの後ろ側と、真逆の壁にも毛布が貼ってある。これは部屋鳴りのフラッターを防ぐものだ。毛布に関してはかなりこだわったところでもあるし、とても役に立ってくれたと感じている。

4. ミックス

ミックスは日本工学院専門学校のア-studioCRにて、(写真5)レコーディング時と同じGENELEC1031×5本を持ち込んで行なった。

ミックス時に苦労したのは、サラウンドのセッティングで収録した音を2MIXへまとめる作業だ。高校生が奏でるフレッシュなサウンドを損なうことなく、違和感のないような仕上がりを目指した。

5. おわりに

今回の”学生の制作する録音作品コンテスト”へは、元々学校の卒業制作の一環で行っていた企画からさらに技術の追究をしてみたいという考えで参加したのだが、こうして学生のうちに荣誉ある賞をいただくことが出来、自分らの技術において成長した点もまだ至らぬ点も再確認することが出来た、とても良い経験になったと感じている。

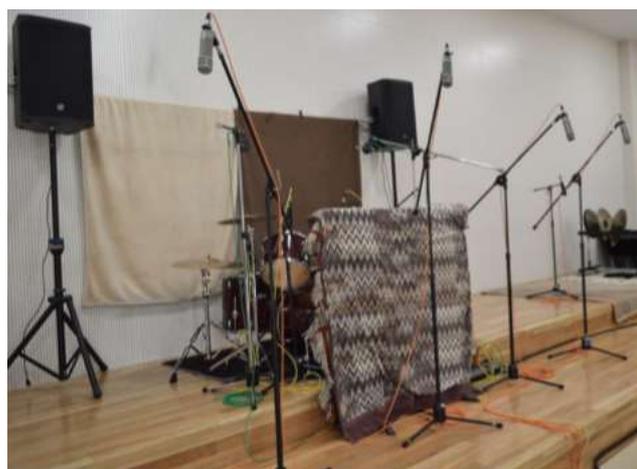


写真4：ドラムス周りの様子

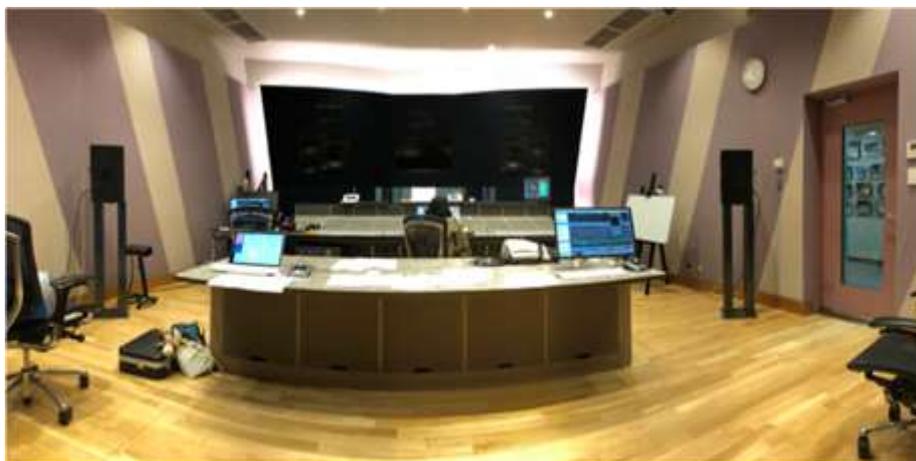


写真5：A-studioCRの様子

■執筆者プロフィール

岡澤 朝輝(おかざわ さき)

1998年、横浜生まれ。

中高6年間吹奏楽でサクソフーンを吹く。

犬と昼寝と時々ドラクエ。

